

■甲賀源吾 榎本武揚が箱館に脱走した時の{回天丸}艦長で、宮古湾での勇戦を、東郷平八郎は賞賛して止まなかった。

こうがげんご

蚕社の獄・・・1839＝ 江戸駒込の掛川藩下屋敷で、藩旗奉行甲賀孫太夫の(5人兄弟の)末子に生まれる。母やすは、横須賀城主西尾忠邦の家臣の娘。諱は秀虎。

阿部正弘首座1845＝ 6歳：

・・・・・・・1848＝ 9歳：

国定忠治磔・1850＝11歳：この頃から、馬術と剣術を学び、

尊徳報徳論・1851＝12歳：父に従い掛川へ下る。

万次郎帰国・1852＝13歳：「文選十八史略史記」などを素読、

ペリー来航・1853＝14歳：

安政大地震・1855＝16歳：この年、長崎に海軍伝習所ができる。再び江戸に出て、佐倉藩士木村軍太郎に蘭学を学び始める。長兄郡之丞は伝習所に学び、後に、藩の槍奉行になっている。

蕃書調所・・・1857＝18歳：一時、帰省ののち、

五ヶ国条約・1858＝19歳：江戸に戻り、航海術を学ぶため、矢田堀景蔵の塾に入ると、蘭書を読み、たちまちのうちに会得、矢田堀に従って、長崎に赴き、伝習所でも学ぶが、

安政の大獄・1859＝20歳：閉鎖となり、江戸に戻って、矢田堀の甥の荒井郁之助の塾で、蘭書によって高等数学を学び、荒井とともに、艦隊操練書の翻訳を行う。矢田堀の推挙で、軍艦操練方手伝出役となり、

桜田門外変・1860＝21歳：神奈川港警備を命じられる。

遣欧使節・・・1861＝22歳：*軍艦操練教授方に出世、さらに、御軍艦組出役を命じられて、江戸湾内を測量。

生麦事件・・・1862＝23歳：*外国奉行水野忠徳らの小笠原諸島調査に、荒井とともに{千秋丸}に乗りくみ随行、暴風雨に遭い、紀州の大島まで流され、収まった後には、黒潮を体験、まるで海の中の川のようにだと記している。

8月18日政変 1863＝24歳：*将軍の上洛で大坂に航行し、近海を測量。富士見御宝蔵御軍艦組となり、新参ながら御目見以上になる。{朝陽丸}船長として、上使一行を小倉方面へ護送、下関で長州から{朝陽丸}を借せと脅されるも断る。

禁門の変・・・1864＝25歳：*将軍が海路江戸に帰るのに供奉、<第一次長州征討>では、命により安芸・豊前に航海、

薩長同盟・・・1866＝27歳：*{奇捷丸}艦長を命じられて大坂に至り、その後、数回航海、

大政奉還・・・1867＝28歳：旧師木村の媒酌で佐倉藩士の長女富士を娶る。*小十人格軍崖役勤方に昇進、喜んだ藩主から馬廻役に抜擢されるも、多忙を理由に固辞。築地に創設された海軍伝習所の生徒取締となり、

明治維新・・・1868＝29歳：*鳥羽伏見の戦で、幕府が敗北するなか、ついに軍艦頭並となるが、幕府海軍の所有する軍艦を新政府軍に引き渡すことを副総裁榎本武揚が拒否、交渉の結果、一部のみ引き渡し、残った軍艦4隻と輸送船4隻で、榎本を統帥とし、荒井郁之助が司令官の{開陽}を旗艦として、蝦夷地に脱走、{回天}艦長としてこれに従い、鷲ノ木に到着。{開陽}が江差沖で坐礁して航行不能となり、

戊辰戦争終・・・1869＝30歳：*旗艦となった{回天}は{幡竜}{高雄}を率い、北上中の政府艦隊中最強の{甲鉄}を急襲捕獲すべく、宮古湾をめざし箱館を出港、暴風に遭遇し、ついに{回天}1隻になるも、碇泊中の政府艦8隻の中に{甲鉄}を見いだし、同艦を奪わんと陣頭に立って指揮したが、敵弾にあたって、戦死した。